Komatsu Research & Advisory

335 Cannon Hill Lane
London SW20 9HQ
info@komatsuresearch.com
www.komatsuresearch.com

オピニオン

2011 年 8 月 30 日

不安と不満の行方

養老孟司東京大学名誉教授は言う。
「希望とは自分が変わること。」

今月（2011 年 8 月）初め、ロンドン北部で突如、暴動が起こった。それは、あっという間に、ロンドン各地に拡がった。普通の民家のドアを覆面集団がノックして、開けると襲撃しているとの噂も出回り、次はこの近所にくるのではないか・・・と不安を感じた。

日本にいると、遠い国での出来事に感じられるかもしれない。しかし、実際にロンドンに住んでいて傍で暴動が起き、しかも、日本人にも被害が及ぶと、国際社会にいる日本人の置かれている環境を、そして「グローバル化」や「改革」という言葉が真に意味する現実の厳しさを、痛感させられる出来事となった。

暴動という行為自体は 2009 年の G20 のデモの時も、2010 年の学費引き上げに対する学生デモの時も一部で起きた。しかし、今までと違ったのは、同時多発的に各地に拡がった上、犯罪性が全面に出たものであったことだ。2005 年 7 月 7 日のロンドン同時多発テロ以来、最も身近で「terror」という言葉を頭ではなく、感覚で意識した。

今回、ロンドンという場所で大規模に暴動が起こったことで「先進国」も「途上国」もなく、暴動が簡単に拡がりうること、また、突然拡がると一時的でも抑えるのが難しいことを、世界中の人々が実感した。今後、各国政府が今まで以上に警備や保険などに某大なコストをかける必要がでてきた。監視社会を作ろうとする動きも各国で出てきている。しかし、ノルウェーで先月（2011 年 7 月）起きたテロも含め、一見突発的なテロや騒乱を完全に監視・防止できないのは明らかだ。

一方、日本に目を向ければ、原発問題により、水や土が汚染され、社会の根幹が揺れている。地震も余震も続いている。停電の心配もある。そして海外では、風評被害を含め、安全基準の高い国日本としての世界での「信用」に「？」がついてしまった。といっても、日本で「？」ならば、天災対策のできていない各国の「信用」も「？？？」のはずなのだが、それに目を向ける人は少ない。

今後、この不安と不満に溢れた世の中はどこへ向かうのか。

本稿の内容については可能な限り正確を期していますが、万が一誤謬があった場合、Komatsu Research & Advisory(以下 KRA)は一切の責任を負いません。本稿の内容は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、KRA の統一的な見解を示すものではありません。情報や見解は、予告なしに変更することがあります。本稿からリンクを張っている第三者のサイトのコンテンツに関しては、KRA はいかなる責任も負いません。本稿の内容を利用したことで生じるいかなる不都合や損害についても KRA は一切の責任を負いませんのでご了承下さい。

安心して住める国はどこか、と世界を見渡してみると、実はどこも天災、人災、民族紛争、独立運動、資源・利権争い等々、数え切れない数の問題を抱えている。そう考え出すと、そもそも、安心していられる世の中ではなかったけれど、見慣れた景色の中で似通った生活水準の人々に囲まれ、勝手に安心していただけ、なのかもしれない。もしそうだとすると、「元に戻る日」は、来ないであろう。

唯一の希望は、人間に適応能力が備えられていることかもしれない。過去はこうであったという執着を捨て、自分が変わり始める。こうして、新たな時代が生まれていくのかもしれない。

濱　美恵子（問合せ：mh@komatsuresearch.com）